

秋田県「大人が支える！インターネットセーフティの推進」での  
「地域サポーター養成講座」への取り組みから見えてきた  
保護者教育啓発成功のポイント

～子どもたちの安全なインターネット利用を支える保護者向けの教育啓発実践の記録～

2016年3月

子どもたちのインターネット利用について考える研究会 事務局

## はじめに

いわゆる「青少年インターネット問題」については、条例等による規制、利用実態調査、相談窓口の開設、教育啓発など、トラブルを減らすためのさまざまな施策を、全国の都道府県や市町村がそれぞれに進めています。

なかでも、機器の多様化やインターネットデビューの低年齢化に伴い重要度が増している、教育啓発の分野については、生徒自身によるルールづくりの成功例が各地で生まれるなど、学校での取り組みに進展が見られる一方で、保護者向けでは、そもそも集合研修に「聞いてほしい人は来てくれない」など、未解決の課題が少なくありません。

「子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)」は、子どもとネットの問題の解決には、家庭での取り組みが欠かせないと考えから、平成20年の設立以降一貫して、家庭での段階的利用解禁の考え方の整理など、保護者支援のための調査研究と情報提供を続けています。また、平成23年度(第三期)の活動報告として公開した「保護者向けの教育啓発のあり方」<sup>1</sup>の提言以降は、横浜市や東京都渋谷区を舞台に、地域に密着した保護者向け教育啓発の実践に継続的に取り組んできました。

そうした中、秋田県が平成25年度に始めた「大人が支える！インターネットセーフティの推進」<sup>2</sup>は、子どもネット研の提言を県レベルでは初めて採用し、保護者向けの教育啓発に正面から取り組もうとする自治体施策として、注目を集めています<sup>3</sup>。

子どもネット研では、この秋田県の取り組みを、開始当初から外部専門家の立場でお手伝いしてきました。本レポートは、平成25年度から27年度までのその協働について、子どもネット研の立場から簡潔に記録することで、得られた成果や推進上の課題を秋田県内外の関係者に伝えようとするものです。<sup>4</sup>

## 目次

1. 秋田県の取り組み	3
2. 地域サポーター養成講座とは	4
3. 地域サポーター養成講座の実際	6
4. 地域サポーター養成講座の成果	7
5. 今後の保護者向け教育啓発の進め方	10
付録1(事前調査質問票)	13
付録2(事後調査質問票)	16
付録3(地域サポーター養成講座 受講者アンケート質問票)	18
付録4(地域サポーター養成講座 第一回分手元資料)	19
付録5(地域サポーター養成講座 第二回分手元資料)	27
付録6(地域サポーター養成講座 第三回分手元資料)	33
付録7(地域サポーター養成講座 第四回分手元資料)	39
付録8(秋田魁新報社と秋田県の協働企画 連載「うまホと学ぼう！ネット利用」)	46
付録9(地域サポーター養成講座 最終回での受講者アンケート自由記述)	47
謝辞	50

<sup>1</sup> 第三期活動報告書は <http://www.child-safenet.jp/activity/1606/> から全文ダウンロード(PDF)が可能。

<sup>2</sup> 「大人が支える！インターネットセーフティの推進」 <http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1373335875896/> も参照。

<sup>3</sup> ダイヤモンド・オンライン「子どもがネットで犯罪やいじめに遭う前に 秋田県が官民協働で取り組む子どものネットリテラシー養成」  
<http://diamond.jp/articles/-/52308> など

<sup>4</sup> 初年度および二年目の地域サポーター養成講座の開催については、子どもネット研の第五期 <http://www.child-safenet.jp/activity/1461/> ならびに第六期 <http://www.child-safenet.jp/activity/1336/> の活動報告書も参照

## 1. 秋田県の取り組み

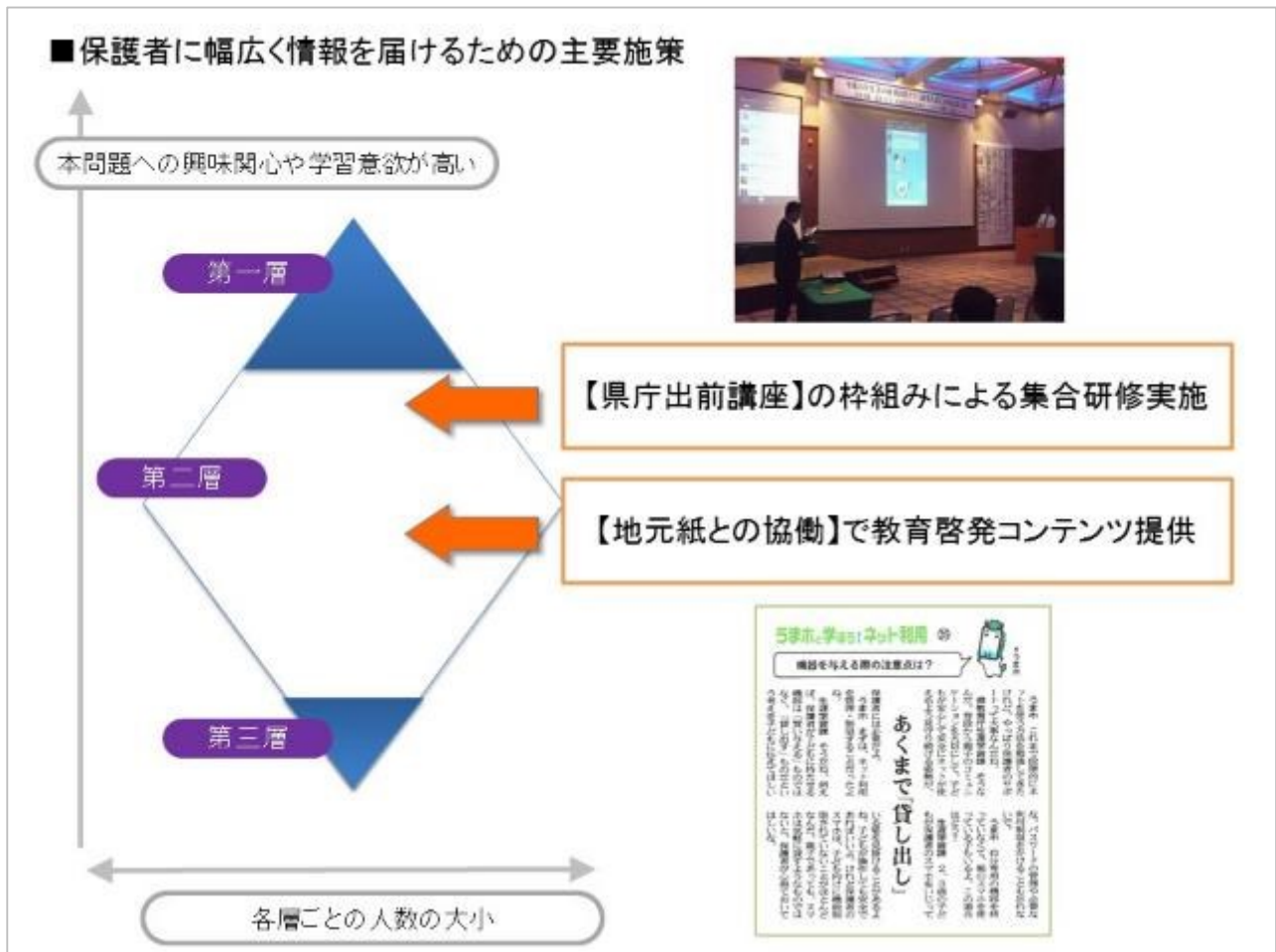
秋田県における青少年インターネット問題についての取り組みは、教育委員会から県警本部、知事部局(生活環境部)まで多岐に渡ります。特筆すべきは、社会教育の一環として教育委員会(生涯学習課)が事務局を務め、県PTA連合会や子どもネット研などと官民協働で進めた、インターネットの安全活用に関する保護者向けの教育啓発の複数の取り組みです。このうち、幅広く情報を届けることをねらいとした施策としては、以下の二点が主軸です。

### 県庁出前講座(一回完結型の集合研修)

学校やPTAなどで、青少年インターネット問題について学びたいとの声が上がるとともに、県職員(社会教育主事)自らが出向く形で、インターネットセキュリティについての集合研修を県内全域できめ細かく実施<sup>5</sup>しています。

### 地元紙との協働(マスメディアを利用した教育啓発コンテンツの提供)

集合研修形式だけでは不十分として、「保護者に直接届く教育啓発コンテンツの提供」も進められました。初年度は電子メールによる保護者向け教育啓発コンテンツの配信を試行。最終年度には県内有力新聞社の協力を得て、教育啓発を目的とした記事が週一回ペースで計30回に渡り掲載<sup>6</sup>されました。



<sup>5</sup> 既存の「県庁出前講座」<http://www.pref.akita.lg.jp/www/genre/000000000000/1000000000901/>の一メニュー(講座名「子どもたちのインターネット健全利用」として実施。生涯学習課および教育事務所・出張所に在籍する社会教育主事計7-8名が交代で講師を務めた。平成25から27年度(12月末時点)まで三年間での累計講座実施回数は300回、受講者数は34,212人に達した。行政職員や教員が自ら研修講師として出向く例は他県でも見られるが、秋田県ほどの回数・受講者数での開催実績は決して多くない。

<sup>6</sup> 秋田魁新報社「うまホと学ぼう！ ネット利用」として毎週水曜日の「秋田さきがけ」のくらし「まなび」欄に記事を連載。インターネット経由とは異なる層への浸透が期待できる地元有力紙との協働について、「危機意識醸成」ではなく、県庁出前講座などの内容を読みやすく簡潔な記事として多数回に分割、掲出した今回の試みは貴重なものと言える。連載タイトルの一覧は本レポート巻末付録として収録。

## 2. 地域サポーター養成講座とは

前項の二つの取り組みに加え、秋田県の保護者向け教育啓発で特筆すべき三つ目の取り組みは、「ネットに少し詳しい大人」を「地域ごとに育てよう」という、連続型小規模集合研修の「地域サポーター養成講座」です。

### 地域サポーター養成講座(複数回連続開催型の集合研修)

その最大の特徴は、地域内や学校内などの保護者全員を一律に対象に、参加率を上げることを目指すのではなく、受講者として「学習意欲の高い大人(=希望者)」を最初から想定した講座設計になっているところです。

一回あたり二時間<sup>7</sup>の連続型研修会を、一週間から四週間ほどの間隔を空けながら一つの会場につき計四回開催します。一回限りの研修会と比べて時間に余裕がある分、駆け足で最新状況に触れるような詰め込み型進行ではなく、問題自体の背景や構造の理解を学習目標にすることが可能です。各回の講座中には受講者同士での情報交換や交流の機会(ワークショップ)も設けられました。また、疑問や不明点を受講者アンケートに記入すると、次回講座の冒頭で講師から詳しい回答・解説を受けられます。受講者には各回の開催の合間に、家庭や職場でさまざまな実践<sup>8</sup>も求められます。秋田県の取り組み姿勢と方向感が合致したということで、子どもネット研の第三期報告「保護者向けの教育啓発のあり方」での提案内容<sup>9</sup>が本講座のカリキュラム設計の理論的な裏付けとして採用されています。



<sup>7</sup> 初年度はいずれも一回あたり一時間半。また一部地域では三回構成とした。

<sup>8</sup> 毎回の講座ごとに「家庭での機器ごとのインターネット利用の有無を調べる」や「子どもの好きなサービスを調べる」といった「宿題」が課された。

<sup>9</sup> 教育啓発の対象としての保護者を一律に扱わず、興味関心や学習意欲に差のある複数グループとして把握し、それぞれに合わせた情報提供や学習提供の場づくりをすべきという考え方。特に、問題への興味関心や学習意欲が高い「第一層」には、一回限りの集合研修ではなく、ある程度の時間をかけてより深い情報提供を行うことで、地域内の口コミを通じて、受講していない保護者にも問題への理解や適切な対処行動が広まるはずとの仮説を提示した。詳細は子どもネット研の報告書 <http://www.child-safenet.jp/activity/1606/> を参照。

## 受講者への期待

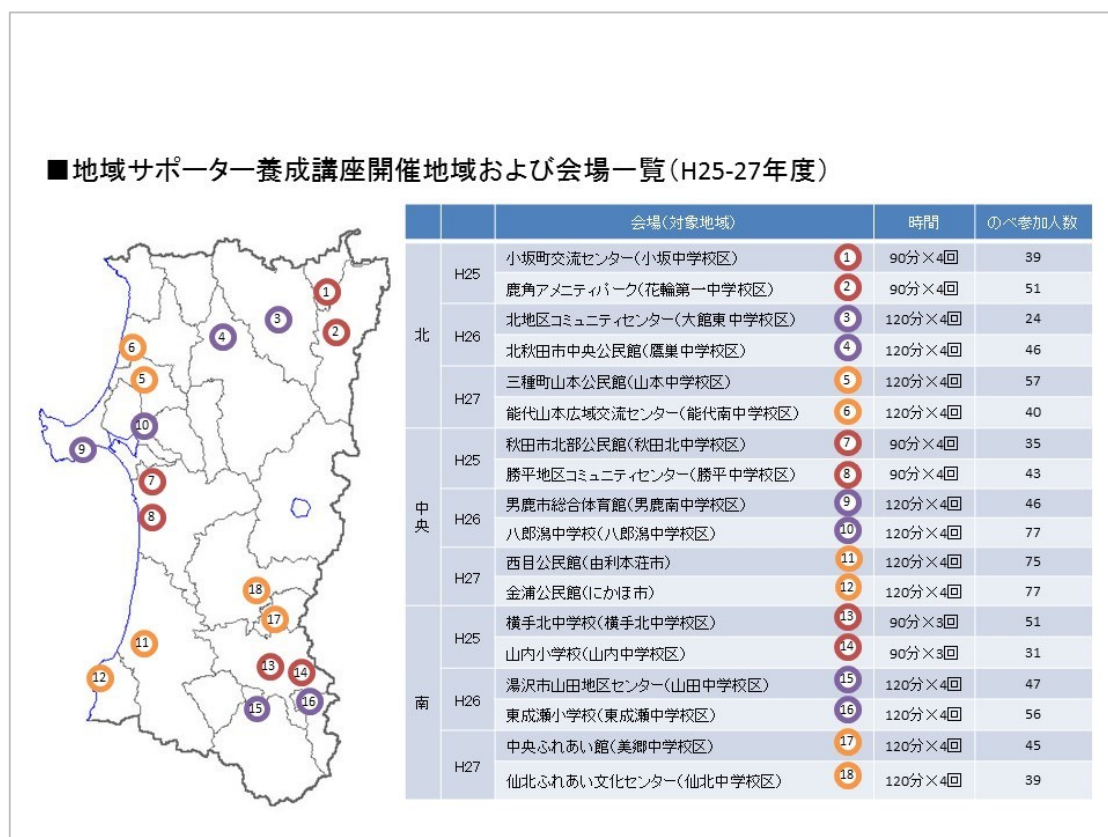
地域サポーター養成講座の受講者に期待されるのは、「教え手になる」ことではなく、「それぞれの家庭や職場(教員などの場合)での実践」です。これに加え、周囲の大人からの「相談先」として機能できることが「望ましい」と位置づけました。

ここで一足とびに受講者に「教え手」としても機能することを期待してしまうと、「青少年インターネット問題の全体像と最新状況、対策についての正しい知識」がより深く幅広く求められます。それらの習得には一定以上の時間がかかる上に、定期的な内容更新の機会も欠かせません。さらには、「人前で話す・教えるための技能」を身につけ、経験を積むことも必要です。ほとんどの保護者にとっては、いずれについてもゼロからのスタートとなり、講座受講を検討する際の心理的な障壁となる可能性もありました。

地域サポーター養成講座では、受講者に対して「教えに行かなくても良い」とした上で、期待することを「自身の家庭での実践」「日常会話レベルでの周囲の保護者との情報交換」に留めています。結果的に、一般保護者向けの集合研修としては負担感の大きい長大な構成にもかかわらず、県教委の集計では三カ年でのべ904名の方に集まっていたことができました。

## コンパクトな地域的広がりの中での相互作用が前提

周囲の保護者間での相互作用を期待する以上、日常生活圏の中に複数の「少し詳しい大人」が暮らしていることが前提となります。そのため、地域サポーター養成講座は、原則として中学校区程度の地理的広がりを基本単位として開催されました。秋田県内を九つの地域に分け、各地域のPTAや市町村教委がそれぞれ二会場を選びました。計三カ年の事業期間でこれを一巡すべく、年間に六会場ずつ<sup>10</sup>での開催となりました。



<sup>10</sup> 年度ごとの開催会場の分布を地図内に記載するとともに、一覧表にまとめた。なお、表中ののべ参加人数は受講者アンケート回収数を示し、県教委集計によるのべ受講者総数とは一致しない。

### 3. 地域サポーター養成講座の実際

前項でも説明した通り、地域サポーター養成講座では、計四回の連続型講座という構成上の特徴を活かし、青少年インターネット問題の現象面だけでなく、背景や構造面についての受講者(保護者)の理解を助け、家庭内での具体的な取り組みの後押しをすることを目標として企画・運営されました。

したがって、四回開催のいずれにおいても講座終盤で、受講者同士の情報交換や交流を目的としたワークショップの時間を設けました。また、各回の受講者アンケートには、その回でよくわからなかった点やより詳しい解説が必要だった点について、質問を記入してもらい、次回の冒頭で、会場ごとに出た質問についての回答解説を行いました。

各回講座の主な項目については以下の通りです。配布資料の実際は、本レポート末尾に全件を収録しています。

#### 第一回『「子どもとインターネット」問題を正しく知ろう』

- ・ 子どもを取り巻く最新の状況
- ・ 気をつけたいトラブルはどんなものか
- ・ トラブルの読み解き方
- ・ どの大人にも今日からできること

#### 第二回『人気サービスの実際』

- ・ なぜ無料で楽しめるのか、本当に無料なのか
- ・ 人気のサービスをのぞいてみよう(実機画面投影含む)
- ・ 利用する時はどんなところに注意が必要か

#### 第三回『保護者管理機能の活用』

- ・ 保護者管理機能でできること
- ・ 保護者管理機能の実際(実機画面投影含む)
- ・ 保護者管理機能の使い方(主要機器ごとの設定のポイント)

#### 第四回『家庭と地域での取り組み』

- ・ なぜインターネットを与えるのかの再確認
- ・ 段階的利用モデルの全体像
- ・ 家庭での子どもとの接し方
- ・ 学び続けていくために
- ・ 地域での協働の可能性



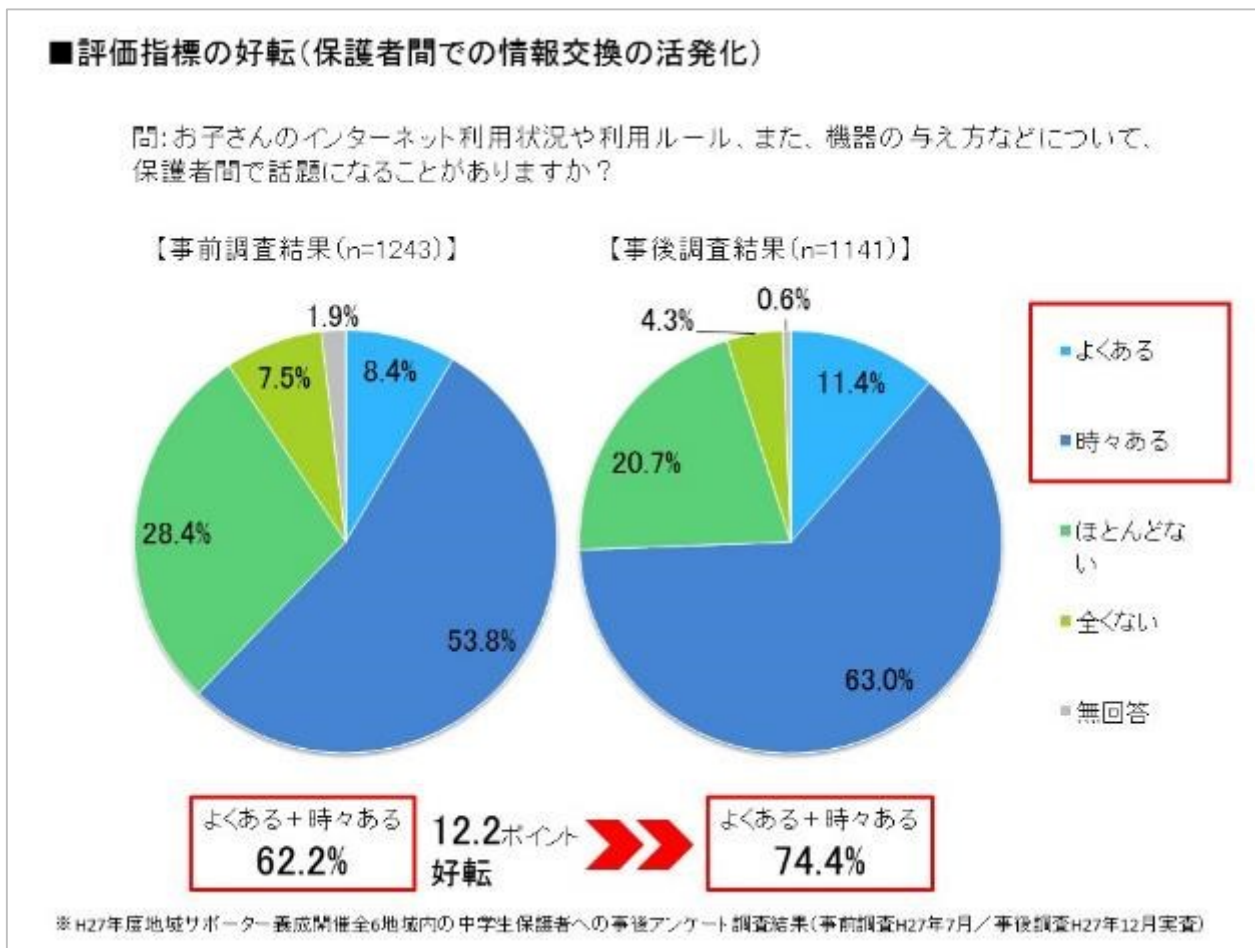
#### 4. 地域サポーター養成講座の成果

地域内の少数の保護者に集中的に働きかけることで、受講者以外の保護者にも好影響

地域サポーター養成講座の実施地域では、小中学生のお子さんを持つ全ての保護者を対象としたアンケート調査を、講座開催時期の前(事前調査)と、後(事後調査)の二度行いました。この調査の結果数値を比較することで「地域内の全保護者を対象に集合研修を行わなくても、地域全体の対処行動の水準引き上げが可能」という仮説の検証を試みました。

その結果、地域サポーター養成講座開催地域全体での行動水準の向上と関わりが深いと考え得る三つの評価指標、「保護者間での情報交換の活発化」(中学生保護者でのポジティブ回答は累計 62.2%→74.4%へと 12.2 ポイント好転)、「地域で相談できる相手先増」(同 79.6%→83.6%へと 4.0 ポイント好転)、「家庭内での親子の対話増」(同 56.8%→65.4%へと 8.6 ポイント好転)のいずれについても、仮説を裏付けるスコアを得ることが出来ました。<sup>12</sup>

この結果から、秋田県では平成 28 年度も、県庁出前講座はもちろん、県としてモデル事業としての地域サポーター養成講座を実施するとともに、指導者養成(認定試験、研修会)をはじめとする、市町村による持続可能な体制づくりの支援にあたる計画としています。



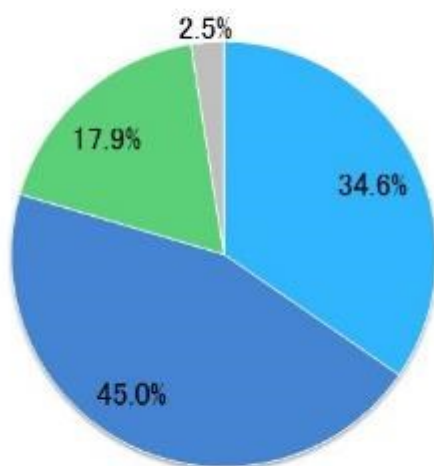
<sup>11</sup> 平成 27 年度の質問紙は本レポートの 13-17 ページに収録。実際には各地域の市町村教委や学校長からの協力依頼文面が追加され、小中学校から児童・生徒経由で保護者に配布・回収された。質問紙の作成および入力集計作業は子どもネット研事務局が担当した。

<sup>12</sup> たとえば平成 27 年度の地域サポーター養成講座が実施された各地域の、全保護者数(アンケート有効回答数の累計で 3132 件)に占める講座受講者実数(一会場あたり 10 から 20 名程度。一部欠席者も含むため合計で 83.25 人。)の比率は、わずか 2.7%程度に留まるにも関わらず、評価指標のスコアは全体として好転している。なお、事後調査の実施時期は、進学・進級を控えた年度の後半に当たるため、地域サポーター養成講座開催などの教育啓発働きかけの有無にかかわらず、保護者間や家庭内での情報交換が活発化したという可能性は否定出来ない点には留意が必要。子どもネット研では、秋田県外を対象とした比較対照のための調査の実施を検討したが諸事情整わず、実査は果たせなかった。

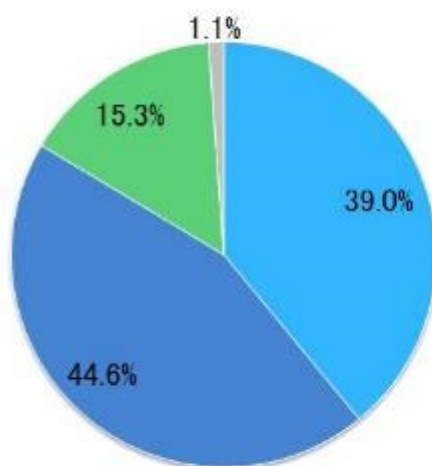
## ■評価指標の好転(地域で相談できる相手先増)

問:お子さんのインターネット利用について、困った時に相談できそうな「少し詳しい人」は、お住まいの地域にいますか？

【事前調査結果(n=1243)】



【事後調査結果(n=1141)】



- いると思う(思い浮かぶ)
- 周囲に聞けば見つかるかもしれない
- 身近にはいないと思う
- 無回答

いると思う+見つかるかも  
79.6%

4.0ポイント  
好転



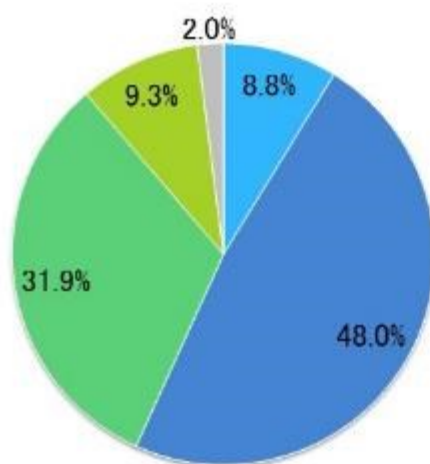
いると思う+見つかるかも  
83.6%

※ H27年度地域サポーター養成開催全6地域内の中学生保護者への事後アンケート調査結果(事前調査H27年7月/事後調査H27年12月実査)

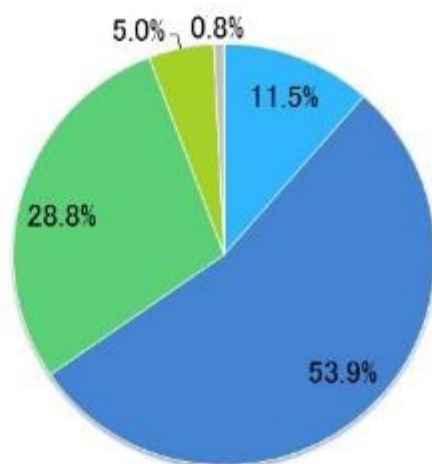
## ■評価指標の好転(家庭内での親子の対話増)

問:インターネット利用について注意すべき点や、トラブルに遭った際の対処方法などについて、お子さんと話し合うことがありますか？

【事前調査結果(n=1243)】



【事後調査結果(n=1141)】



- よくある
- 時々ある
- ほとんどない
- 全くない
- 無回答

よくある+時々ある  
56.8%

8.6ポイント  
好転



よくある+時々ある  
65.4%

※ H27年度地域サポーター養成開催全6地域内の中学生保護者への事後アンケート調査結果(事前調査H27年7月/事後調査H27年12月実査)



なお、この調査では、子どもと保護者それぞれのインターネット利用実態や機器所有状況などについても聞きました。秋田県全域を対象とした調査ではなく、学校単位での結果が網羅的に得られることで、児童生徒向けの学校での指導方針策定の参考や、保護者向け情報共有に役立てる例も見られました。

近年、民間の調査で多用されているウェブアンケート方式とは異なり、質問紙の配布回収方式での調査としたため、子どもネット研にとっても、保護者の状況などをより正確に把握するための手がかりともなりました。

### 第一層保護者が自らコーディネーター役となった例

地域サポーター養成講座の受講者が、地域内のコーディネーター役として、外部から講師を招聘するなどして、自主的な学習会を企画、開催するなどの発展的な取り組みが見られた会場<sup>13</sup>もありました。



### 受講者に対しては、講座カリキュラムや運営方法改善のための基礎調査も実施

地域サポーター養成講座の受講者に対しては、講座のたびに受講者アンケート<sup>14</sup>への回答を求めました。こちらの調査では、受講者の満足度、理解度やカリキュラムの難易度の妥当性を測りました。あわせて受講者の行動変容期待度(行動の意図ならびに難易度)の測定の基礎データ取得も試みました。

講座受講者を対象としたアンケートの結果は各項目とも良好であり、おおむね受講者の利用経験や予備知識に合わせた講座が提供できたものと考えられます。また、行動変容期待については、意図(何か行動してみようと思う)と、難易度(その行動はどのくらい簡単か)の中央値についてデータを蓄積することが出来ました。さらに、受講者の多くが、当初の期待通り、まず身の回りでの実践に取り組もうとしていることは、受講者アンケートの自由記述欄<sup>15</sup>からもうかがえました。

<sup>13</sup> たとえば大館東中学校区の地域サポーター養成講座受講者の発案により、市教育委員会の家庭教育推進事業の一環として、大館市内の保育園を会場に、子育て中の母親が参加しやすい平日午前中に講座が開催された。(上記写真は自主学習会の様子)

<sup>14</sup> 平成27年度の受講者アンケートの質問紙は、本レポートの巻末付録に収録。

<sup>15</sup> 各会場での第四回(最終回)開催時の受講者アンケート自由記述を、本レポート巻末付録に収録。

## 5. 今後の保護者向け教育啓発の進め方

保護者向けの教育啓発について、「難しい」「思ったように進まない」との悩みを持たれている自治体の担当者は少なくありません。確かに、学校という場やプロの教え手である教員を利用することができる児童・生徒向けの教育とは異なり、保護者向けの教育啓発ではそもそも「機会の確保」と「教え手の確保」から始めなければいけません。また、保護者向けの教育啓発に関わる行政部門自体が複数あり、それぞれの部門の方向性や要員・予算上の制約条件も異なることも悩みの種になりそうです。

しかし、青少年のインターネット問題の解決のためには、保護者向けの教育啓発は避けては通れません。もちろん児童・生徒向けの教育は有効かつ必要なものですが、「子どもの状況や能力、気質を見きわめ」ながら、子どもに「情報機器を上手に与える」ことはもちろん、「賢いネット利用のお手本」を示し、「トラブル時には最初の受け止め役を果たす」ことができるのは、各家庭の保護者をおいて他にはいないからです。

地方自治体が保護者向け教育啓発にあらためて取り組むにあたって、望ましい進め方を列挙してみます。

### (1) 関係者間での状況の整理や方向感の共有を確実に行う

都道府県レベルの自治体では、担当部門ごとに、それぞれ青少年インターネット問題に係る教育啓発の取り組みがなされているのが普通です。しかし縦割りの行政組織の壁に阻まれて、全体としてはチグハグな取り組みになっていることも少なくありません。

関係部門間での状況の共有や、方向感のすり合わせを確実に行うことで、限られた資源(予算や人員配分)の効果的な執行が可能になります。

その際、教育啓発の対象としての保護者を、ひとかたまりの集団としてではなく、異なる属性を持った複数の層的構造として把握した上で、それぞれに合った取り組みを組み合わせることで教育啓発を進めようという「地域密着型教育啓発モデル」の考え方は、きっと役立ちます。

### (2) 保護者向け教育啓発の進め方は、複数の関係者間の協働、連携、役割分担が前提になると考える

保護者向けの教育啓発の取り組みを成功させるためには、いくつかの観点において、微妙なバランスをとりながら進める必要があります。

#### [官民の協働が有効]

たとえば、行政組織の持つ公共性と、IT 関連事業者・団体などの持つ専門性がいずれも最大限に発揮されるためには、官民の関わり方は、対等な立場で主体的に事業に関わる、いわゆる協働であることが望ましいでしょう。

比較的短期間での担当者の異動が避けられない行政単独の取り組みでは、変化の早いインターネット利用状況を常に把握し、適切な方向感を打ち出すことは容易ではありません。一方で、IT 関連事業者や団体だけの取り組みでは、地域との距離があり、関係機関の協力を得るまでに時間がかかり過ぎる恐れがあります。地域内での施策展開もバランス感に欠けたものになりがちです。

秋田県での「大人が支える！インターネットセーフティの推進」では、協働パートナーである県とPTA、子どもネット研に加え、学識者(お茶の水女子大学、秋田大学)、IT 事業者(NTTドコモ)、地元企業(秋田魁新報社など)からも、インターネットセーフティ推進委員会の構成メンバーとして、貴重なアイデアが出されました。

## [県と市町村の間でも協働や役割分担]

同じ自治体の中でも、県レベルで出来ることと、市町村レベルで出来ることにはずいぶん違いがあります。特に、青少年のインターネット利用の低年齢化傾向が急激に進む昨今、子ども向けはもちろん、保護者向けの教育啓発においても、小・中学校を軸とした取り組みが必要です。そのため、小・中学校を直接所管する市町村教育委員会による、地域の状況に合ったきめ細かな施策が成否の鍵を握っています。一方で、たとえば教育啓発に使われる教材の調達や更新、教え手の訓練などまでを、人的な余裕がもともと少ないそれぞれの市町村単独で進めるのは難しいと考えられます。県には地域外からの情報収集や協働の枠組みづくりを積極的に行い、全体としての方向感を示した上で、教材の提供や、人材育成などで市町村の取り組みを後方から支援するといった役割分担が期待されています。

この三年間の秋田県の一連の取り組みは、こうした役割分担を念頭においた上で、県が主導的にモデル的な展開を進めたものです。今後は、市町村が地域ごとの教育啓発施策立案・推進の主役となり、県は、教材の調達や更新、指導者の派遣（県庁出前講座）、地域に根ざした指導者の育成支援などに重点を移していく段階に入っていくものと考えられます。

## [行政内の複数部門での状況共有を欠かさない]

自治体の行政組織の中では、「教育」、「生活安全・警察」、「福祉」など、複数の異なる視点で専門分化した部門が、それぞれに教育啓発に関わる施策を立案、推進することが普通です。しかし、相互の関係や役割分担がなく、訴求内容や期待する行動の優先度が矛盾していたり、その逆に、同じような内容の繰り返しだったりするのは、公共コストの使い方としては無駄であり、受け手となる保護者の期待にも応えられません。こうした事態に陥らないために、関係者は積極的な情報交換や状況共有に努める必要があります。

秋田県のこの三年間の取り組みでは、横断的な情報共有や報告先として、新たに「インターネットセーフティ推進委員会」が組織されましたが、必ずしも専門の会議体を立ち上げる必要まではありません。他県での取り組みを見ても、既存の連絡・報告の仕組みに、「青少年インターネット問題に係る教育啓発等の施策の推進状況」が話題として追加になるくらいの方が、特定の行政部署などに新たな負担をかけることなく、こまめに情報共有が実現できるなど、無理なく継続できるものと考えられます。

## (3) 保護者向け教育啓発を支える「コーディネーター」と「講師」の育て方

地域内における保護者向け教育啓発の全てを、IT 関連事業者の社会貢献活動などのみに頼って推進することは現実的ではありません。それぞれの地域で、自治体などが主体となって、新たに「教え手」を育てる必要があります。しかし、地域内に保護者向け教育啓発の「教え手」を作ることについては、関係者間で、誰にどの程度の役割を期待するのかなどの方向感をしっかりと共有してから着手することが必要です。

## [見逃されがちなコーディネーター的人材の重要性]

そもそも保護者向けの教育啓発は、「機会の確保」から始まります。「講師」として活動する人材以上に、「自らは登壇しないが、青少年インターネット問題の本質について学び、集合型の研修やその他の情報伝達の施策を適切に組み合わせられる」、コーディネーター的人材の充実が求められるところです。まずは県や市町村の担当者や、教員などが「コーディネーター」として、地域内の要所要所に存在している状況を目指すべきでしょう。

「教え手」ではなく、「少し詳しい大人」を育てることを目標に掲げた、秋田県の地域サポーター養成講座でも、市町村の行政関係者や教員の参加が多くみられ、青少年インターネット問題について学ぶ良い機会となりました。

### [講師人材に求められる能力の二面性]

一方、講師として活動する人材には、「青少年インターネット問題と対策についての知識」と「人に教える、伝えるスキル」の両方が求められます。

このうち前者については、問題の広がり把握した上で、保護者向けの教育啓発の場面における優先度づけや、家庭内での対応について、情報機器の保護者管理機能の利用方法のような内容も含め、具体的な示唆や助言に必要な知識を習得していることが期待されます。刻々と変化する問題について、絶えず知識の更新をすることが必要にはなりますが、比較的短期間であっても、集中的な学習が可能であれば、知識の習得自体は期待出来る分野と言えるでしょう。

しかし後者については、本人の資質や動機付けはもちろん、高度の訓練を終えた後に、一定期間の実務的な経験が求められるなど、その習得は決して容易なものではありません。また、保護者自身が問題を理解し、対策について学んだ上で、家庭内でさらに子どもに対して働きかけを行う必要があるなど、保護者向けの教育啓発には独特の難しさもあると考えられます。

### [教育啓発を支える人材の養成は地域外の信頼できる仕組みの活用で]

こうした前提に立ち、知識も経験もほぼゼロの候補者の中から新たに人材を養成することは難しいという判断から、秋田県では、今後の県内での教育啓発の取り組み拡大に向け、後者のスキルに長けた県職員(社会教育主事)が、前者の知識を習得するという順序で、まず一定数の「教え手」を確保することとしました<sup>16</sup>。

しかし、コーディネーターや、講師を養成し、その知識や技能を維持し続けることは、市町村レベルの自治体はもちろん、県レベルの自治体であっても、決して易しいことではありません。また、特に講師については、習得すべき知識や伝えるスキルのいずれもが一定以上の基準を満たしていることが期待されます。保護者向けの貴重な教育啓発機会を任せるためには、さらにその到達度を、信頼できる第三者が認証してくれるなどが理想的と考えられます。秋田県においては、外部の民間団体<sup>17</sup>の開発した指導者養成・認定の仕組みを利用することで、そうした課題の解決を試みています。他の地域でも類似の仕組みが広がっていくものと考えられます。

<sup>16</sup>一方、青森県八戸市では、前者の知識のベースが高いと期待される、地元 IT 系事業者の従業員に対して、後者のスキルを習得させるという秋田県とは逆方向のアプローチにて、講師の養成に取り組み始めている。(八戸 IT・テレマーケティング未来創造協議会「子供を守るインターネットセーフティ」事業)

<sup>17</sup>一般社団法人セーフティーインターネット協会による「ネットセーフティインストラクター」養成認定制度。プログラムの開発にあたっては、子どもネット研のこれまでの調査研究成果や、教育啓発実践の結果も生かされている。秋田県の場合、まずは県の社会教育主事が同制度による教育プログラムに参加した上で、次年度以降広く県内に指導者養成の仕組みを展開する計画とされている。上記八戸市の取り組みでも同制度の採用を予定している。

## 付録1(事前調査 質問票)

### 質問・回答用紙(全24問あります)

各設問いずれか一つ(複数回答可の設問については当てはまる全ての選択肢)の□に印をつけてください。

#### 1. お子さんについて

※兄弟姉妹で在学中の場合、インターネット利用についてもっとも気になるお子さんお一人についてお答えください。

【お子さんの学年】 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2 中3

【お子さんの性別】 男子 女子

#### 2. ご自宅などでインターネット利用<sup>\*</sup>に使うことがある機器を教えてください。(複数回答可)

※メール/メッセージ、検索・閲覧・投稿、オンラインゲーム、ショッピング、動画閲覧など

【保護者(ご回答者)ご自身が使うことがある機器】 ※お仕事での利用は除きます。

自宅では利用していない パソコン 携帯電話 スマートフォン(iPhone/Android など)

タブレット端末(iPad/Android/Surface/Kindle など)

【お子さんが使うことがある機器】

使わせていない パソコン 携帯電話 スマートフォン(iPhone/Android など)

子ども向けケータイ/スマートフォン 携帯音楽プレーヤー(iPod Touch/Walkman F)

携帯型ゲーム機(ニンテンドー3DS/PS Vita など) 据え置き型ゲーム機(Wii/PS4 など)

タブレット端末(iPad/Android/Surface/Kindle) その他( )

#### 3. お子さんはどこでインターネットを利用していますか？(複数回答可)

リビングなど共用スペース 食卓 自分の部屋(机など) 布団、ベッドの中 お風呂の中

外出・移動中 よくわからない インターネットは利用していない その他( )

#### 4. お子さんは、いつもどのような時間帯にインターネットを利用していますか？(複数回答可)

起床後すぐ 学校に出かけるまでの間 放課後(塾や習い事、友達との遊びの途中)

帰宅直後 食事中 夕食後 入浴中 自宅での勉強中 就寝直前(布団、ベッドの中)

休日 よくわからない 時間帯は定まっていない インターネットは利用していない

#### 5. お子さんはコミュニケーション(交流)サイト・サービス<sup>\*</sup>を日常的に利用していますか？

※Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)など、自分の日常を書き込み、他者とのやりとりができるサービス

利用している 利用していない よくわからない

#### 6. お子さんはLINE(ライン)などの無料通話・メッセージアプリ<sup>\*</sup>を日常的に使っていますか？

※他にカカオトーク、Skypeなども。無料通話やメッセージ交換が1対1やグループでできるアプリ(ソフト)

使っている 使っていない よくわからない

#### 7. お子さんはYouTube やニコニコ動画などの動画サイトを閲覧していますか？

よく閲覧している ときどき閲覧している 閲覧していない よくわからない



8. あなたはコミュニケーション(交流)サイト・サービスを日常的に利用していますか？  
利用している 利用していない よくわからない
9. あなたはLINE(ライン)などの無料通話・メッセージアプリを日常的に使っていますか？  
使っている 使っていない よくわからない
10. ご自宅では無線LAN(Wi-Fi)によるインターネット接続を利用されていますか？  
利用している 利用していない よくわからない
11. ご自宅の近所に、お子さんが無料で利用できる無線LAN(Wi-Fi)サービスはありますか？(複数回答可)  
ない ある(コンビニエンスストア) ある(ファミリーレストランやファーストフード店)  
ある(図書館など公共施設) ある(ショッピングモールやスーパーマーケット) よくわからない
12. 以下の中で、お子さんが正しく理解できていないと思われることはありますか？(複数回答可)  
内緒のつもりでホームページやプロフィールページを作っても、知らない人がページを見ることがある  
インターネット上には本当の意味での匿名性はない(通信事業者には記録が保管される)  
インターネット上にいったん公開した文章や写真を、後から完全に回収、削除することは不可能  
インターネット上の失敗で、将来まで損をしたり、後悔したりする子どもが後を絶たない
13. お子さんが、学校でインターネットの利用に関してどんな授業を受けているかご存知ですか？  
よく知っている 大体知っている あまり知らない 全く知らない
14. お子さんの毎日のインターネット利用時間についてどう思いますか？  
長すぎる やや長い 問題ない 利用していない
15. インターネット利用に関するお子さんとの向き合い方\*について、最も近いものをお選びください。  
 ※利用のルールやマナー、機器の適切な与え方、利用させるサービスの選び方、利用時間帯などの指導や合意・決定  
自信をもって対応している 自信はないが、対応している 自信がなく子ども任せになっている
16. あなたご自身のインターネットの使い方で気をつけている点があればお答えください。(複数回答可)  
就寝直前に使わない 食事中に使わない インターネットから離れる日や時間帯を設けている  
子どもの写真をインターネットに公開しない 閲覧した情報の真偽を十分に確かめる  
終わりの時間を決めて使う 歩きながら使わない その他( )
17. お子さんの安全・安心なインターネット利用について、あなたの情報源は何ですか？(複数回答可)  
新聞やテレビの報道、解説 雑誌、書籍 インターネット 配偶者 子ども  
友人・知人 職場の同僚 同じ学区の保護者 学校からのお知らせ 自治体などの広報  
事業者のパンフレット セミナー その他( )

18. インターネット利用についてのお子さんとの約束事やルールで、当てはまるものをお答えください。

(複数回答可)

- 一日あたりの利用時間を決めている  利用する時間帯を決めている  食事中は使わない  
 課金やショッピングなどを制限している  自室に持ち込まない  勉強中は使わない  
 困ったことがあればすぐ親に相談する  フィルタリングをかける  親がいない時は使わない  
 利用させていない  約束事やルールは特にない  その他( )

19. インターネット利用について注意すべき点や、トラブルに遭った際の対処方法などについて、お子さんと話し合うことがありますか？

- よくある  時々ある  ほとんどない  全くない

20. インターネットによるコミュニケーション(メール、メッセージ、交流サイトなど)について、あなたご自身の失敗経験や注意点などを、お子さんに伝えたり、アドバイスしたりすることがありますか？

- よくある  時々ある  ほとんどない  全くない

21. お子さんのインターネット利用状況や利用ルール、機器の与え方などについて、保護者で話題になることがありますか？

- よくある  時々ある  ほとんどない  全くない

22. 他の家庭でのインターネット利用状況やルールの内容などについて、知りたいと思いませんか？

- 思う  思わない

23. お子さんのインターネット利用について、困った時に相談できそうな「少し詳しい人」は、お住まいの地域にいますか？

- いると思う(思い浮かぶ)  周囲に聞けば見つかるかもしれない  身近にはいないと思う

24. その他、お子さんのインターネット利用について不安に思われることや、家庭での対応の仕方についてのご質問などがあればお知らせください。(自由記述)

アンケート調査は以上です。ご回答ありがとうございました。

## 付録2(事後調査 質問票)

### 質問・回答用紙(全13問あります)

各設問いずれか一つ(複数回答可の設問については当てはまる全ての選択肢)の□に印をつけてください。

#### Q1 お子さんについて

※ 兄弟姉妹で在学中の方は、インターネット利用(メール/メッセージ、検索・閲覧・投稿、オンラインゲーム、ショッピング、動画閲覧など)がもっとも気になるお子さんお一人についてお答えください。

【学年】 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中1 中2 中3

【性別】 男子 女子

Q2 インターネットセキュリティに関する「地域サポーター養成講座」が本校(地区)で開催されることを、事前にご存知でしたか？

知らなかった 知っていたが興味が持てなかった 知っていたが参加しなかった  
参加した その他( )

Q3 上記「地域サポーター養成講座」を受講された保護者はお知り合いの中にいらっしゃいますか？

いる【Q3-2へ】 いない/わからない【Q4へ】 自分自身が受講した【Q4へ】

【上記質問 Q3で「いる」を選択された方は、以下の質問 Q3-2 にもお答えください】

Q3-2 受講された保護者の方と、地域サポーター養成講座での受講内容や、お子さんのインターネット利用などについて、話をする機会がありましたか？

複数回あった 一度はあった なかった わからない/おぼえていない

【以下の質問 Q4以降は全員お答えください】

Q4 お子さんのインターネット利用状況や利用ルール、機器の与え方などについて、保護者間で話題になることがありますか？

よくある 時々ある ほとんどない 全くない

Q5 お子さんのインターネット利用について、困った時に相談できそうな「少し詳しい人」は、お住まいの地域にいますか？

いると思う(思い浮かぶ) 周囲に聞けば見つかるかもしれない 身近にはいないと思う

Q6 インターネット利用にあたって注意すべき点や、トラブルに遭った際の対応方法などについて、お子さんと話し合うことがありますか？

よくある 時々ある ほとんどない 全くない

Q7 インターネット利用についてのお子さんとの約束事やルールで、当てはまるものをお答えください。(複数回答可)

- 一日あたりの利用時間を決めている  利用する時間帯を決めている  食事中は使わない  
 課金やショッピングなどを制限している  自室に持ち込まない  勉強中は使わない  
 困ったことがあればすぐ親に相談する  フィルタリングをかける  親がいない時は使わない  
 利用させていない  約束事やルールは特にない  その他( )

Q8 お子さんは LINE(ライン)などの無料通話・メッセージアプリ\*を日常的に使っていますか？

※他にカカオトーク、Skype など。友人知人と無料通話やメッセージ交換ができるアプリ(ソフト)

- 使っている  使っていない  よくわからない

Q9 お子さんは YouTube やニコニコ動画などの動画サイトを閲覧していますか？

- よく閲覧している  ときどき閲覧している  閲覧していない  よくわからない

Q10 お子さんの毎日のインターネット利用時間についてどう思いますか？

- 長すぎる  やや長い  問題ない  利用していない

Q11 インターネット利用に関するお子さんとの向き合い方\*について、最も近いものをお選びください。

※利用のルールやマナー、機器の適切な与え方、利用させるサービスの選び方、利用時間帯などの指導や合意・決定

- 自信をもって対応している  自信はないが対応している  自信がなく子ども任せになっている

Q12 あなたご自身のインターネットの使い方で気をつけている点があればお答えください。(複数回答可)

- 就寝直前に使わない  食事中に使わない  インターネットから離れる日や時間帯を設けている  
 子どもの写真をインターネットに公開しない  閲覧した情報の真偽を十分に確かめる  
 終わりの時間を決めて使う  歩きながら使わない  その他( )

Q13 その他、お子さんのインターネット利用や、家庭での対応の仕方について不安に思われていることなどがあればお知らせください。(自由記述)

アンケート調査は以上です。ご回答ありがとうございました。

## 付録3(地域サポーター養成講座 受講者アンケート質問票)

H27 年度 地域サポーター養成講座 第一回「子どもとインターネット」問題を正しく知ろう  
(9月2日開催 仙北中会場)

### 受講者アンケート

各項目に回答(当てはまるものを選択または記入)の上、無記名でご提出ください。

- あなた自身についてお聞かせください。(当てはまるもの全て選択)
  - ・ 立場 保護者 教職員 行政職員 地域関係者 その他
  - ・ 性別 男性 女性
  - ・ お子さん 未就学 小学生 中学生 高校生 卒業済 その他
  - ・ よく利用する 電子メール LINE ツイッター フェイスブック ユーチューブ
- 本日の講座についての全体的な評価を教えてください。(いずれか選択)  
良かった まあ良かった あまり良くなかった 良くなかった
- 本日の講座の教材や説明方法についての評価をお聞かせください。(いずれか選択)
  - ・ 説明や例示の仕方は 分かりやすい 分かりにくい
  - ・ 使われていた単語・用語は 理解できた 難しかった
  - ・ 前提としている理解度や知識は ちょうど良い 高すぎる 低すぎる
- 本日の講座で、よくわからなかった点や、さらに詳しい説明が必要だった点をお知らせください。  
(※次回の講座にて、記入いただいたご質問の回答・解説を行う予定です)
- 今日学んだことをご家庭で実際に試してみようと思いますか？(いずれか選択)  
思う 少し思う あまり思わない 思わない 子どもと同居していない
- 今日学んだことをご家庭で実際に試すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか選択)  
簡単 まあ簡単 あまり自信がない 自信がない 子どもと同居していない
- 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者・同僚と話してみようと思いますか？(いずれか選択)  
思う 少し思う あまり思わない 思わない
- 今日学んだことを配偶者や周囲の保護者・同僚と話すのはどのくらい簡単ですか？(いずれか)  
簡単 まあ簡単 あまり自信がない 自信がない
- その他、何か具体的に取り組んでみようと思われたことや、講座の感想などをお知らせください。

主催:秋田県教育委員会 協働:子どもたちのインターネット利用について考える研究会 ほか



秋田県教育委員会「大人が支える！インターネットセーフティの推進」  
平成27年度 地域サポーター養成講座 第一回

**「子どもとインターネット」問題を  
正しく知ろう**



主催 秋田県教育委員会(事務局:秋田県教育庁生涯学習課)  
協働 子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)  
秋田県PTA連合会、各都市PTA連合会、各市町村教育委員会

講師 高橋大洋(子どもネット研 事務局)



※本資料の制作には子どもネット研のモデル教材「保護者のためのインターネットセーフティガイド」が活用されています。

#### 地域サポーター養成講座とは

- 120分間の講座×計4回構成の大人向け研修会
  - 第一回:「子どもとインターネット」問題を正しく知ろう
  - 第二回:人気サービスの実際
  - 第三回:保護者管理機能の活用
  - 第四回:家庭と地域での取り組み
- 各回講座の標準構成
  - 前回質問の回答解説
  - 各回テーマについて、現状・課題とその背景の学習
  - 普通の保護者にできる具体的な対策や行動のヒント
  - ガヤガヤタイム(情報交換や交流のためのワークショップ)

2

#### 本講座の特徴と受講者のみなさんへの期待

- 正しい優先度づけ、着眼点を知る
- 問題の背景を学び、今後の学習の基礎を作る
- 実際に試して、周囲にその経験を伝える
  - 周囲の学習の場づくり
  - 困っている人の「最初の相談相手」に



## 本日(第一回)の流れ

- ・ 「子どもとインターネット」問題を正しく知ろう
  - ・ 子どもを取り巻く最新の状況
  - ・ 気をつけたいトラブルはどんなものか
  - ・ トラブルの読み解き方
  - ・ どの大人にも今日からできること
- ・ ガヤガヤタイム(ワークシート記入とペアワーク)
- ・ まとめ(次回までの宿題説明とアンケート記入)

4

## 子どもを取り巻くインターネット

あらゆる機器がつながる、デビューの低年齢化が進む

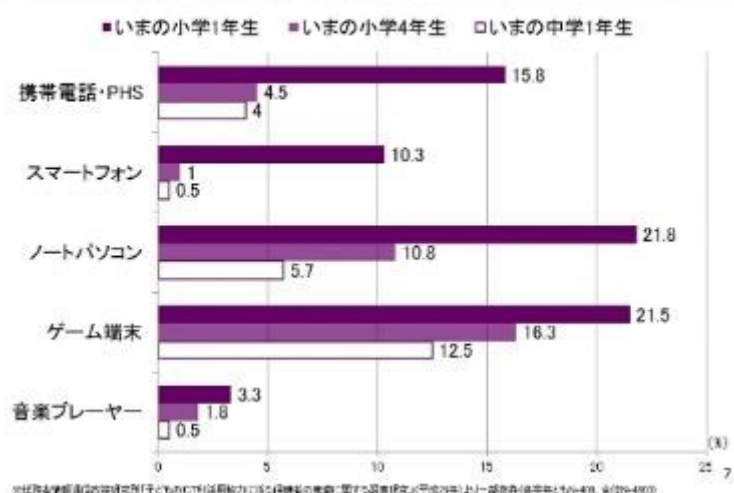
5

## 子どもの周りのインターネット機器

- ・ パソコン
- ・ 携帯ゲーム機(ニンテンドー3DS、PS Vita/PSP)
- ・ 据え置きゲーム機(Wii/Wii U、PS3/PS4)
- ・ 携帯音楽プレーヤー(iPod touch、Walkman F)
- ・ タブレット(iPad、各社Androidタブレット)
- ・ スマートフォン(契約あり、契約なし)

6

## 小学校入学前に利用を始めた割合



## 安全かつ効果的に使えて当たり前

- ・ **中高生**
  - 部活の連絡網や友だちとのやりとり
  - スマートフォン上の学習支援サービス
- ・ **大学生**
  - 履修登録やレポート提出
  - 入学式前に友だち探し
- ・ **社会人**
  - 取引先とのメールでのやり取り
  - 安価な情報発信(販売促進)ツール

8

## 気をつけたいトラブル

人生を狂わせる「参加発信利用に伴う失敗」と「長時間利用傾向」

9

## 「普通のサイト・サービス」で起きる要注意トラブル

- 大人が思いつく「インターネットの危険」
  - アダルト・残虐など不適切コンテンツ掲載サイト
  - 架空請求詐欺やセキュリティ被害
- 優先的に対処すべき危険
  - 身体生命の危機に直結するもの
    - 出会い意図が無いままの性暴力被害
  - 不適切発信がきっかけのプライバシー情報拡散
    - 第三者による私的制裁→長期にわたる不利益
  - 長時間利用
    - 健康や心身の発達、生活全体への悪影響

10

## トラブルの読み解き方

適切な行動に必要な知識と日常とのギャップ

11

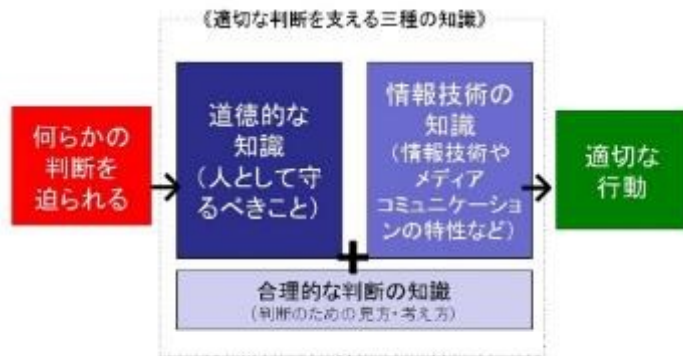
## 今どきの子どもたちのインターネット利用の「当たり前」

- 参加・発信型
  - 自身の日常を友人と共有
- 写真や動画の撮影、共有
  - カメラ内蔵機器、共有を促すサービスの多さ
- 自分専用＝持ち運び利用機器
  - 一人一台、ケーブル不要のインターネット接続



12

適切な判断に必要な知識の多くは「日進月歩」ではない



※「三種の知識による判断せよ!」(王田ら, 2010)から作成

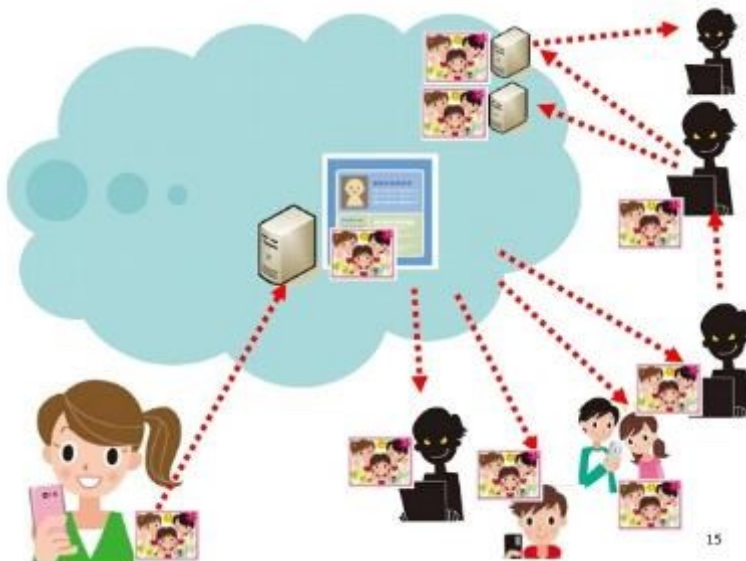
13

インターネットの特性と子どもたちの誤解

- **公開される**  
「大丈夫、知り合いにしか教えてないから」  
「鍵付きにしてるから平気…」
- **匿名性は無い**  
「自分が書いたってことはバレないよ」  
「名前は書いてないから心配ない…」
- **書き込みは取り消せない**  
「失敗しても削除・退会すれば大丈夫…」  
「メールだけだから…」
- **伝わりにくく、書き過ぎにもなりやすい**  
「誤解を招かないように書き方には気をつけている」  
「信頼できる相手だと思う」



14



15



## どの大人にも今日からできること

子どもへの向き合い方と大人自身の変化

16

### はじめに知っておきたいこと

- ・ 過剰・不適切な利用には必ず理由がある
  - 知識・理解不足(伝わるはず、秘密にできるはず)
  - 深層心理(相手に喜ばれたい、不安、ラクがしたい)
  - 生活・家庭での困難や「満たされなさ」からの避難・代償
- ・ 子ども自身の判断力が重要
  - 隔離は不可能な時代
  - 「道徳」と「情報技術」の知識をバランスよく
  - 「知っていること」と「やっていること」には常にギャップ

17

### 今日からできること

- ・ 困ったらすぐ知らせるように声をかける
  - 子どもの利用の様子をよく見る
  - 「心配をかけたくない」「どうせ分からない」という気持ちも
  - 聞いた大人も一人では背負い込まずに共有や相談
- ・ 子どもと一緒に学ぶ、考える、補い合う姿勢
  - 「問答無用」や「覗き見」は避ける
  - 大人と子どもの得意分野は異なる
  - インターネットで入り口を「調べる」
  - 大人自身の使い方を見直す

18

## ガヤガヤタイム～まとめ

現状の確認、周囲との助け合いの第一歩  
(本日はお隣りの方とのペアで進めます)

19

### ワークシート1(インターネット利用が気になるお子さんお一人についてお答えください)

#### ・ お子さんの学齢と性別

- 就学前( )歳 小学( )年 中学( )年  
高校( )年 それ以降( )
- 男 女

#### ・ お子さんの利用している情報機器

- パソコン 携帯ゲーム機(機種 )
- 据え置きゲーム機(機種 ) タブレット(機種 )
- 携帯音楽プレーヤー(機種 )
- 携帯電話(保護者と共用 子ども専用 キッズ端末)
- スマートフォン(保護者と共用 子ども専用 契約なし端末)

20

### ワークシート2(インターネット利用が気になるお子さんお一人についてお答えください)

#### ・ お子さんのインターネット利用トラブル経験

- 長時間利用 不適切コンテンツ( )
- 詐欺被害 高額課金 友人とのSNSトラブル
- 知らない相手とのトラブル( )
- 写真や動画の公開( )
- その他( )

#### ・ いま知りたいこと、悩み

- 長時間利用を減らしたい いつデビューさせるべきか
- フィルタリングなど情報機器上の保護者管理機能の設定方法
- より多くのトラブル事例 より詳細なトラブル事例
- 利用ルールや指導の方法 人気サービスの実態
- その他( )

21

## 第一回のまとめ

- どんな情報機器もインターネットにつながる
- デビューの低年齢化が進んでいる
- 発信利用に伴うトラブルの深刻さを知ることが大切
- 大人と子どもは得意なところが違う
- インターネットについても子どもと話をしよう
- 自信が無い大人は自分だけではない



22

## 次回(第二回)までの宿題1 (インターネット利用が気になるお子さんお一人について確かめてください)

- お子さんのインターネット利用の有無(機器ごと)
  - パソコン 携帯ゲーム機(機種 )
  - 据え置きゲーム機(機種 ) タブレット(機種 )
  - 携帯音楽プレーヤー(機種 )
  - 携帯電話(保護者共用 子ども専用 キッズ端末)
  - スマートフォン(保護者共用 子ども専用 契約なし端末)
- お子さんの好きな/よく使うサービスの名称
  - ゲーム( )
  - 動画系( )
  - 交流系( )
  - メッセージ系( )
  - その他( )

23

## 次回(第二回)までの宿題2 (あなた自身について書き出してみてください)

- お子さんのインターネット利用(把握、指導、支援)について  
現時点での自信の度合い
  - ばっちり まあまあ やや不安 かなり不安
- 地域サポーター養成講座受講で解決、改善したいこと
  - ( )
  - ( )
  - ( )

24

秋田県教育委員会「大人が支える！インターネットセーフティの推進」  
平成27年度 地域サポーター養成講座 第二回



## 人気サービスの読み解き方

主催 秋田県教育委員会(事務局:秋田県教育庁生涯学習課)  
協賛 子どものインターネット利用について考える研究会(子どもネット・秋田)  
秋田県PTA連合会、各都市PTA連合会、各町村教育委員会  
協賛 エフエー株式会社、ビックル株式会社  
講師 各種大学・大学院 講師



※この資料の制作には子供ネット利用の専門家「秋田県のためのインターネット」プロジェクトが協力しています。

### 本日(第二回)の流れ

- 人気サービスの読み解き方
  - なぜ無料で楽しめるのか、本当に無料なのか
  - 人気のサービスをのぞいてみよう
  - 利用する時はどんなところに注意が必要か
- ガヤガヤタイム(ワークシート記入と共有)
- まとめ(次回までの宿題説明とアンケート記入)

2

### インターネットサービスの収益構造

3

完全無料ではサービスは運営できない

- 広告モデル
  - 全員一律→個人の属性や行動に合わせた出稿
    - バナー
    - コンテンツマッチング
    - アフィリエイト
    - 記事そのもの
- 課金モデル
  - 最初は無料→魅力を感じた一部利用者は課金
    - ゲーム、動画、音楽、アバターやスタンプ



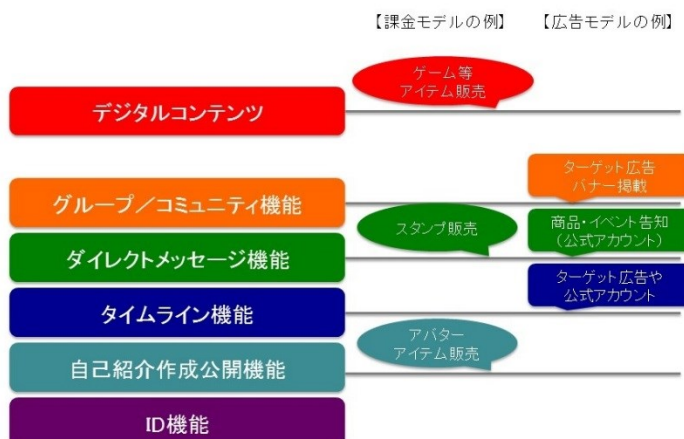
4

### 人気サービスの共通構造と収益モデル



5

### 人気サービスの共通構造と収益モデル



6



## 人気サービスの実際

7

### 人気サービス「LINE(ライン)」とは

- LINE株式会社(東京)運営のメッセージサービス
  - 平成23年6月誕生、現在の登録ユーザー数は5億人超
    - 国内利用者数は5200万人以上(毎日利用は約3400万人)
    - 海外: インドネシア・タイ・スペイン・インド・台湾・メキシコで利用が多い
  - スマートフォン・タブレットやiPod touchでの利用が主
    - 専用アプリ(ソフトウェア)をダウンロード(機器に導入)して利用開始
    - パソコンや従来型携帯電話でも利用可能(PC・ガラケー)
  - 短文テキストのやりとりや音声・ビデオ通話
    - いずれも無料で利用可能(LINE利用者間)。一対一電話にも発信可能(有料)
    - テキストだけでなく、スタンプ(絵文字)や画像などの貼付け送信も
    - 一対一以上に、グループ利用が盛ん。タイムラインでの近況共有も。

8

### 人気サービス「Twitter(ツイッター)」「Facebook(フェイスブック)」とは

- ツイッター: 米国発の(マイクロ)ブログサービス
  - 国内約2000万人、海外3億人超が利用
  - パソコン、スマートフォン・タブレットなどで利用(ブラウザでも利用可能)
  - 気に入った書き手をフォロー(ツイートを購入)するには会員登録要
  - 利用者の相互承認後は、一対一のメッセージ交換(DM)も可能
  - 気に入ったツイートを簡単に周囲に広める仕組み「リツイート」「お気に入り」
- フェイスブック: 米国発、世界最大のSNS(交流)サービス
  - 国内約2400万人、海外13億人超が利用
  - 実名、顔写真登録(公開)の推奨
  - パソコン、スマートフォン・タブレットなどで利用(ブラウザでも利用可能)
  - 利用者間の一対一メッセージ交換も可能
  - 傘下にInstagram(インスタグラム)など

9

参考:三大人気交流サービスの違い

	LINE	Facebook	Twitter
カテゴリ	メッセージ	ソーシャル ネットワーキング (交流)	(マイクロ)ブログ
基本的な性質	閉鎖空間 (当事者以外からは、 やりとりが見えない)	開放空間 (利用者設定で閉鎖的 な運用も可能)	開放空間 (原則として全ての書き 込みが公開)
子どもへの浸透	とても高い	まだ低い	高い
主な利用スタイル	友人知人との情報交換 (盛んなグループ利用)	日記の公開	情報収集 動静報告(つぶやき) 友人と連絡、コメント
典型的なトラブル	同級生間での攻撃的な 利用や長時間利用傾向	公開範囲への誤解や 不適切な設定	公開の意識を持たずに 発信や拡散

10

動画系サービスの例

- **蓄積型**
  - YouTube(ユーチューブ)
  - ニコニコ動画
  - Instagram(インスタグラム)
  - Vine(バイン)
  - MixChannel(ミックスチャンネル)
  - (三大人気交流サービスへの直接投稿・リンク埋め込み)
- **生中継型**
  - ニコニコ生放送
  - ツイキャス
  - Periscope(ペリスコープ)

11

利用する時には

12

## 人気サービスの共通構造と注意すべき点

【注意すべき点】

デジタルコンテンツ	高額課金や交換トラブル
グループ/コミュニティ機能	グループ内やり取りでの配慮や自制
ダイレクトメッセージ機能	見知らぬ相手への対応のあり方
タイムライン機能	公開範囲や内容、書きぶりへの配慮
自己紹介作成公開機能	顔写真・名前などの適切な取扱い
ID機能	パスワード管理、サービス外で利用しない

13

## 参考:メッセージの便利さと起きやすいトラブルの例

- ・ 短文で済み、前置きも不要
  - 誤解も起きやすい、「あらたまったやり取り」デビューに一苦労
- ・ 相手がメッセージを読むとすぐ分かる
  - 「既読無視」問題→長時間利用の原因
- ・ トークの履歴を一覧で見られる
  - いったん生まれた行き違いを水に流しにくい
- ・ グループが簡単に作れる
  - 外す・置き去り等のいやがらせ、同調圧力、集団極化
- ・ 気心の知れた相手とだけのやり取り
  - ID掲示板での「友だち募集」、知らないメンバーのグループ出入り
- ・ トーク相手以外に会話を見られる心配が無い
  - 「開放空間」デビュー時のギャップ、「スクリーンショット」での流出



14

## ガヤガヤタイム～まとめ

(本日もお隣りの方とのペアで進めます)

15

ワークシート1 (ご自身で使ったことのあるサービスについて記入してください)

サービス名	どんな時にどんな使い方をしていますか?	どんな収益モデル?
LINE(ライン)		<input type="checkbox"/> 広告 <input type="checkbox"/> 課金
Facebook(フェイスブック)		<input type="checkbox"/> 広告 <input type="checkbox"/> 課金
YouTube(ユーチューブ)		<input type="checkbox"/> 広告 <input type="checkbox"/> 課金
Yahoo!(ヤフー)検索		<input type="checkbox"/> 広告 <input type="checkbox"/> 課金
( )		<input type="checkbox"/> 広告 <input type="checkbox"/> 課金

16

ワークシート2 (ご自身のサービス利用についてもう一度よく考えてみましょう)

- ・ よく利用するサービス(名称 )
  - 課金の有無や方法などサービスの収益モデルを確かめた
  - 自己紹介の記入項目は最低限にとどめた
  - 知らない人とは「友達」にならないように検索範囲などを調節した
  - 投稿記事や写真の公開範囲設定を自分の用途に合わせて調節した
  - 利用時間の上限を決めた
  - サービス退会方法について確認した
  - 特に何も確かめたり、調節せずに利用していた
- ・ 試してみたいサービス(名称 )
  - 種別 交流 メッセージ 動画 ゲーム その他( )
  - 用途 ( )

17

第二回のまとめ

- ・ 「無料」で利用させるための「広告」と「課金」
- ・ 自分が提供しているものを理解して賢く付き合う必要
- ・ 人気サービスをちょっとだけ体験
- ・ 主要サービスに共通する注意点を確認

18

秋田県教育委員会「大人が支える！インターネットセーフティの推進」  
平成27年度 地域サポーター養成講座 第三回



## 保護者管理機能の活用

主 催 秋田県教育委員会(事務局:秋田県教育庁生涯学習課)  
協 働 子ガガタイムのインターネット利用について考える研究会(子ガガタイム)  
秋田県PTA会連合会、幸野市PTA会連合会、幸野町村教育委員会  
協 賛 サマー株式会社、ビックカメラ株式会社  
講 師 高橋 人 洋(子ガガタイムのインターネット利用について考える研究会 事務局)



※本資料の著作権は子ガガタイム(株)が所有し、秋田県教育委員会(子ガガタイム)のインターネット利用について考える研究会(事務局)が管理しています。

### 本日(第三回)の流れ

- 保護者管理機能の活用
  - できること
  - 機能の実際
  - 使い方(主要機器ごとの設定のポイント)
- ガヤガヤタイム(ワークシート記入と共有)
- まとめ(次回までの宿題説明とアンケート記入)

2

## 保護者管理機能でできること

3

## 保護者管理機能の意義

- ・ 能力の発達に応じた「段階的」利用解禁を実現するために欠かせない存在
  - 必要な経験を積ませるための道具



※「子どもネット 研」の提唱する段階的利用モデル(2015)から作成

4

## 制限の回避と保護者管理機能の実効性

- ・ 制限がかかっていない機器・環境・経路の利用
- ・ 管理者(保護者)用パスワード・暗証番号の入手
  - 総当たり式
  - ショルダーハッキング(肩越しに覗き見)
  - ソーシャルエンジニアリング(会話や観察)
  - 機器・ソフトの一時的欠陥(=検索による情報収集)
- ・ 機能や設定の不備、不足
  - ブラックリスト方式の限界(網羅性と更新頻度)
  - サービス提供側の「落としどころ」はさまざま
  - 保護者の理解不足や指示(設定)の抜け・漏れ

5

## 保護者管理機能の実際

6



## 実際に提供されている機能の例

- ・ 管理設定の保護(管理用パスワード)
- ・ 利用者切り替え
  - パソコン(Windows/Mac)、一部のAndroid機器で可能
- ・ 個別機能・アプリ利用／追加・削除の可否
  - 機器本体(基本ソフト)の不足を追加アプリで補う場合も
- ・ コンテンツ閲覧範囲(ゲームや動画)
  - レイティング(自己評価)結果を信頼
- ・ アクセス先範囲(=ウェブフィルタリング)
  - ブラックリスト(第三者評価)を利用
- ・ 課金の可否や上限設定
- ・ 利用時間の制限

7

## 保護者管理機能の使い方

主要機器ごとの設定のポイント

8

## 共通する手順(例:ウェブフィルタリングの始め方)

1. ソフトウェア(アプリ)の入手、機能の有効化(オン)
  - ✓ 出荷(販売)時点では無効(オフ)になっている機器がほとんど
2. 管理者(保護者)用のパスワードや暗証番号の決定
  - ✓ 設定の保護・変更や個別調節、アンインストールの際に必要
3. 子どもの年齢に合わせた制限範囲の選択
  - ✓ 「小学生向け、中学生向け、高校生向け」のように大まかに
4. 家庭の方針や利用の必要に応じた個別調節
  - ✓ 分野の選択や個別許可(目的のページ・サイトを確認、URLを入力するなどで「部活の連絡用ページのみ許可」のように)
5. 利用状況の把握と再度の調節(成長に合わせて緩める)
  - ✓ ソフトウェア内などに残るアクセス先など「履歴」の確認も有用

使い始めた後が肝心

9



## パソコンでの保護者管理設定のポイント

- ・ 利用者権限の分離(親用と子ども用のアカウント設定)
- ・ アクセス先範囲(=ウェブフィルタリング)
  - 子ども向け検索サービスの利用(詳細はこちら) (検索サービス)
    - ブラックリスト方式のウェブフィルタリングへ
- ・ YouTube動画のフィルタリング
  - ブラウザごとに設定のロック(Googleアカウント必要)



10

## 携帯ゲーム機での保護者管理設定のポイント

- ・ 管理設定の保護(管理用パスワードの決定と管理)
- ・ 個別機能・アプリ利用/追加・削除の可否
  - インターネットブラウザを無効化可能
- ・ コンテンツ閲覧範囲(CEROレーティング)
- ・ アクセス先範囲(=ウェブフィルタリング)
- ・ 課金の可否や上限設定
- ・ 利用時間の制限



11

## 参考:ニンテンドー3DSの「保護者による使用制限機能」項目

- |                            |               |
|----------------------------|---------------|
| ・ 年齢制限                     | >3DSソフトの年齢区分  |
| ・ インターネットブラウザの使用           | >ウェブサイトを見られなく |
| ・ ニンテンドーeショップ等での商品やサービスの購入 | >クレジットカード無断使用 |
| ・ 3D映像の表示                  | >目の成長に悪い影響    |
| ・ Miiverseの使用(投稿/閲覧)       | >他ユーザーとの接触回避  |
| ・ 写真や画像・音声・動画・長文テキストの送受信   | >詳細なやりとりを禁止   |
| ・ 他のユーザーとのインターネット通信        | >ゲーム内やりとりに影響  |
| ・ 他のユーザーとのすれちがい通信          | >データ交換に影響     |
| ・ フレンドの登録                  | >特定の相手との交流を回避 |
| ・ DSダウンロードプレイの使用           | >新規アプリの入手を禁止  |
| ・ 配信動画の視聴                  | >一部アプリ自体も制限   |

※最新の情報は任天堂のウェブサイト <http://www.nintendo.co.jp/3ds/parents/> で確認してください。

12

## スマートフォンなどでの保護者管理設定のポイント

- ・ 管理設定の保護(管理用パスワード)
- ・ 個別機能・アプリ利用／追加・削除の可否
  - 機器本体(基本ソフト)の不足を追加アプリで補う場合も
- ・ コンテンツ閲覧範囲(ゲームや動画)
  - レイティング(自己評価)結果を信頼
- ・ アクセス先範囲(=ウェブフィルタリング)
  - 携帯電話事業者による提供(スマートフォン)
  - Yahoo!あんしんねっとアプリの入手(携帯音楽プレーヤー)
- ・ 課金の可否や上限設定
- ・ 利用時間の制限

13

## ガヤガヤタイム～まとめ

(本日もお隣りの方とのペアで進めます)

14

## ワークシート1(おさんと同居中の保護者の方向け)

- ・ おさんの学齢と性別
  - 就学前( )歳 小学( )年 中学( )年
  - 高校( )年 それ以降( )
- ・ おさんの情報機器にどんな管理を試みようと思うか
  - (機種名: \_\_\_\_\_ 所有者: 子ども 保護者 )
  - 管理者パスワードを設定する(多くの機器)
  - 利用者を切り替えて使うようにする(パソコンなど)
  - 特定機能の利用を制限する(ゲーム機、スマートフォンなど)
  - 利用時間の制限をする(一部ゲーム機や携帯電話事業者)
  - アプリ追加/削除制限をする(多くの機器)
  - 行き先制限(=ウェブフィルタリング)をする(多くの機器)
  - その他( \_\_\_\_\_ )

15

## ワークシート2(保護者以外の方向け)

- ・ お仕事内容
  - 教職員(小学校 中学校 高校 その他)
  - 行政職員 地域関係者 その他( )
- ・ 本日の受講内容に関連して、児童生徒や同僚、保護者などにどのような働きかけをしてみようと思うか
  - 児童生徒の機器および保護者管理機能の利用実態を調査
  - 児童生徒向けに保護者管理機能の果たす役割を説明
  - 保護者に保護者管理機能の役割と限界について説明(資料提供)
  - 保護者に保護者管理機能の具体的な使い方を説明(資料提供)
  - 同僚に保護者管理機能の概要と使い方を説明
  - 実際の機器上で保護者管理機能の設定や動作を試してみる
  - その他( )

16

## 第三回のまとめ

- ・ 保護者管理機能は「経験を積ませるため」のもの
- ・ 保護者管理機能に頼り切ることはできない
- ・ 主な保護者管理機能の機能項目
- ・ 機器ごとの使い方のポイントをご紹介

17

秋田県教育委員会「大人が支える！インターネットセーフティの推進」  
平成27年度 地域サポーター養成講座 第四回



## 家庭と地域での取り組み

主 催 秋田県教育委員会(事務局:秋田県教育庁生涯学習課)  
協 賛 子どものためのインターネット利用について考える研究会(子どものネット研)  
秋田県PTA協会、各郡市PTA協会、各市区町村教育委員会  
セファール株式会社、ピット・ブルー株式会社  
後 援 高橋大治(子どものインターネット利用に関する研究)事務局



※本資料の制作には子どもネット110の「子ども保護者のためのインターネット」ブックが活用されています。

### 前回までの振り返り

- ・ 問題を正しく知ろう(第一回)
  - ・ 発信利用に関わるトラブルへの対処と子ども側の背景
- ・ 人気サービスの読み解き方(第二回)
  - ・ サービスの共通構造を知ることで危険予知が可能に
- ・ 保護者管理機能の実際と限界(第三回)
  - ・ 必要な経験をさせるための保護者支援ツール
  - ・ 主要な機器ごとに設定のポイントを確認
  - ・ 「おまかせ」ではなく、子どもとの対話のきっかけに活用

2

### 前回の宿題1

- ・ ガヤガヤタイムで決めた保護者管理機能についての「やってみること」を実際に試してみる

ー うまくいった点 ( )  
 ( )  
 ー できなかった点 ( )  
 ( )  
 ー 不明な点 ( )  
 ( )

3

## 前回の宿題2

- ・ 本地域の保護者の実態・意識調査結果スライドを見て、自分にできそうなことを書き出してみる
  - 行政や学校組織への期待や要望ではなく、自分自身でできること

4

## 本日(第四回)の流れ

- ・ 家庭と地域での取り組み
  - ・ なぜインターネットを与えるのかの再確認
  - ・ 段階的利用モデルの全体像
  - ・ 家庭での子どもとの接し方
  - ・ 学び続けていくために
  - ・ 地域での協働の可能性
- ・ ガヤガヤタイム(ワークシート記入と共有)
- ・ まとめ

5

子どもにもインターネットは必要？

6

- ・ インターネットを使って、上手に情報を「集められる、取捨選択できる、発信できる」
  - 「機器が操作できる」「安全に利用できる」は基礎的な能力にすぎない
  - リテラシーを高める必要性は大人も同等（＝インターネットの魅力を発見する必要）
  - 知識だけでなく、経験が欠かせない

7

参考：従来のメディアとインターネットの違い

	従来のメディア	インターネット
伝わる情報の 信ぴょう性	○高い (訓練された複数の中継者 による選別と加工)	×低い (全ての個人による 自由な発信を許容)
伝わる情報の 深さと多様性	×低い (介在する場自体に 豊的な制約が存在)	○高い (事実上無制限)
情報の伝わり方の 即時性	×低い	○高い
情報発信にかかる コスト	×高い	○低い

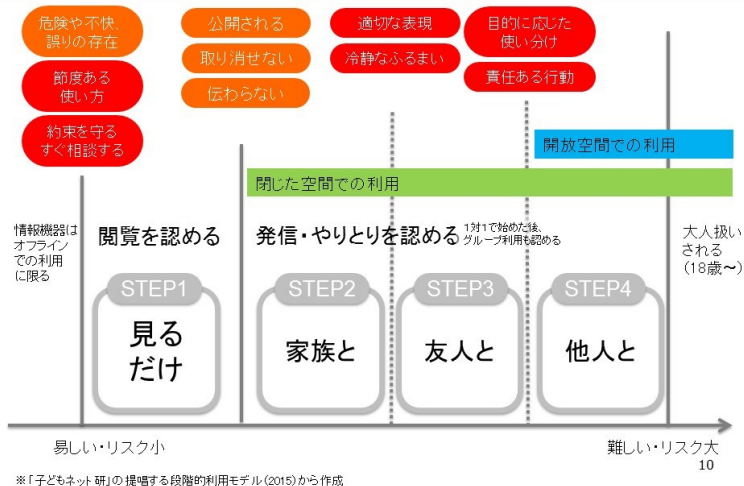
8

## 理想のデビューと現実

9



## デビューの各段階で求められる知識・力



## 「理想的にデビュー」し損なった時のやり直し方

- 機器取り上げや機能制限などにこだわらない
  - 子どもが「隠さない」ことの方が重要
- 「様子見」という名の放置をしない
  - 先延ばしせずに子どもと向き合う(懸念点を伝えるところから)
- 機器の買い替えを好機とする
  - 保護者所有の機器を「常時貸している」への切り替え

## 子どもとの接し方

- 困ったらすぐ相談するように伝える(再掲)
  - トラブル時の対応には大人のネットワークの方が有効
- 大人も「本気」を示す
  - 大人自身の使い方を変える(目的意識や節度)
  - 新しいことに挑戦する
- インターネットとの距離の取り方が今後の焦点
  - 有限の時間をどう使うのか



長時間利用の予防のために

- ・ 「布団・ベッドへの持ち込み」は危険信号
- ・ 何がマズイのかを共有する
- ・ どのくらい使えるのかを「見える化」する
  
- ・ 決めた限度を自分で守る練習が必要
- ・ 保護者自身も大切なお手本
- ・ 周囲との協力も有効

13

## 今後の取り組みへの手がかり

14

学び続けていくために

- **上手な検索の仕方**
  - ・ 検索語選びが鍵(二つ以上の組み合わせを少しずつ試す)
  - ・ 「信頼できる情報源を見つける」をゴールにする
- **詳しい人とのつながり**
  - ・ 専門家をフォローする
  - ・ 「自分より詳しい人」を身近で見つける
  - ・ 情報は「出す人」のところに入ってくる

15

## 地域での協働の可能性

- ・「共通のルール」は子どもたちと一緒に考える
  - ・ 大人にも通用する考え方ほど実効性も高い
- ・ 特に保護者向けは小分けでのアプローチで
  - ・ 全員向けと熱心層向けを並行で進める
  - ・ 一度で網羅しようとせず、なるべく分割して伝える
    - ・ 県教委生涯学習課の「うまホと学ぼう！ネット利用」連載は好例
  - ・ 県庁出前講座の活用などで小さな勉強会を増やしていく
  - ・ 状況の定量的な把握やヒヤリハット事例の共有

16

## ガヤガヤタイム～まとめ

17

## ワークシート1 (計四回の受講の振り返り)

- ・ お子さんのインターネット利用(把握、指導、支援)について  
自信の度合い
  - 現在 ばっちり まあまあ やや不安 かなり不安
  - 第一回 ばっちり まあまあ やや不安 かなり不安
- ・ 講座受講で解決、改善したかったことを自己評価
  - ( ) 5 4 3 2 1
  - ( ) 5 4 3 2 1
  - ( ) 5 4 3 2 1

18

ワークシート2(今後変えていきたいこと=前回宿題の転記)

・ 自分にできそうなことを書き出してみる

- 自分の家庭や職場(業務の中)で

- 他の保護者や同僚などに

19

第四回のまとめ

- ・ 知識社会/情報社会を生きていくのに必要なリテラシー
- ・ 段階的デビューの理想と現実
- ・ 子どもを変えようとする前に、まず大人の本気が必要
- ・ インターネットのことはインターネットで学びやすい
- ・ この地域で出来ること

20

付録8(秋田魁新報社と秋田県の協働企画 連載「うまホと学ぼう! ネット利用」)

- 【第1回】 6月 3日(水) 10代はネットをどう使っているの? 発信・参加型が主流
- 【第2回】 6月10日(水) スマホじゃなくても注意が必要? 隠れ機器もリスク
- 【第3回】 6月17日(水) 保護者がすべきことは何か? 使える機能の制限を
- 【第4回】 6月24日(水) 保護者はどの程度管理すればいい? 段階的に制限緩和を
- 【第5回】 7月 1日(水) 携帯電話とスマホの違いは? スマホは“小型PC”
- 【第6回】 7月 8日(水) トラブルの元、身近な所にあるよね? 会話、書き込みも注意
- 【第7回】 7月15日(水) 「なりすまし」犯罪に逢わないためには? やりとりなしが一番
- 【第8回】 7月22日(水) 不適切な投稿、どうして続くのかな?
- 【第9回】 7月29日(水) 「鍵付き」の公開なら安全だよな?
- 【第10回】 8月 5日(水) 匿名だと個人が特定されない?
- 【第11回】 8月12日(水) いったん投稿した内容は完全には取り消せない?
- 【第12回】 8月19日(水) トラブルに発展したらどうなるの?
- 【第13回】 8月26日(水) 文字でのやりとりは会話とどう違う?
- 【第14回】 9月 2日(水) トラブルに遭ったらどうすればいい?
- 【第15回】 9月 9日(水) ラインは どうして無料なの?
- 【第16回】 9月16日(水) ラインのトラブルを防ぐには?
- 【第17回】 9月23日(水) フェイスブックでの注意点は?
- 【第18回】 9月30日(水) ツイッターの特徴は?
- 【第19回】 10月 7日(水) ツイッターで心得ておくべきことは?
- 【第20回】 10月14日(水) 動画も簡単に発信できちゃうね?
- 【第21回】 10月21日(水) ネットデビューはいつから?
- 【第22回】 10月28日(水) 大人はまずどうサポートすべき?
- 【第23回】 11月 4日(水) 「体験期」を卒業した後は?
- 【第24回】 11月11日(水) 「利用開始期」はどうサポート?
- 【第25回】 11月18日(水) 僕は「習熟期」って言える?
- 【第26回】 11月25日(水) 機器を与える際の注意点は?
- 【第27回】 12月 2日(水) 家庭でのルールづくりのこつは?
- 【第28回】 12月 9日(水) 困っている子どもにどう対応?
- 【第29回】 12月16日(水) 適切なネット利用、身に付けるには?
- 【第30回】 12月23日(水) 家庭だけで頑張らなくていい?

**うまホと学ぼう! ネット利用 ⑨**

「鍵付き」の公開なら安全だよな?



**広まる恐れも考えて**

「鍵付き」の公開なら安全だよな? という問いに、うまホは「鍵付き」の公開は、確かに安全ではあるが、鍵付きの公開には、鍵を失ったときに、鍵が壊れてしまうというリスクがある。鍵付きの公開は、鍵を失ったときに、鍵が壊れてしまうというリスクがある。鍵付きの公開は、鍵を失ったときに、鍵が壊れてしまうというリスクがある。

**うまホと学ぼう! ネット利用 ⑩**

家庭だけで頑張らなくていい?



**地域全体で見守ろう**

家庭だけで頑張らなくていい? という問いに、うまホは「地域全体で見守ろう」というのが、家庭だけでは難しい。地域全体で見守ろうというのが、家庭だけでは難しい。地域全体で見守ろうというのが、家庭だけでは難しい。

※全 30 回全ての連載記事は <http://www.pref.akita.lg.jp/www/contents/1433738163432/index.html> にて閲覧可能

## 付録9(地域サポーター養成講座 最終回での受講者アンケート自由記述)

- インターネットのことはインターネットで学びやすい、というのは目からウロコ！でした。やってみないとわからない、知らないというのは当然のこと、もっと自信をもってツイッターにチャレンジしてみようと思いました。大人を子どもは見ている(眼)、見られているというのを忘れていました。
- 講座で学んだ話を夫や家族にも話して、使い方やこれからの使用で困ったときの相談など、家族間で話し合える環境を作りたいと思います。食事時の携帯の使用も気をつけたいと思います。
- 機器のフィルタリングをどのようにやったら子どもを守れるかと思っていたが、それよりも、子どもと話し合うことが大事だと気がつきました。
- 興味を持っている年配の方もいらっしゃるので研修会を開いてみたい。大変お世話になりました。
- 食事のときのスマホは絶対やめる！…くらいの気持ちで、付き合い方を家族で見直していきたいと思いません。本当にありがとうございました。
- 家族と話し合って進めたいと思いました。
- まずは大人の本気が必要なので子どもへの説得力を強化するためにも、ガラケーからスマホに取り組んでみようと思う。家族、友人、地域にどんどん情報発信できればと思っている。理想ですが…。
- 家庭、学校、PTA、地域等、各コミュニティへ持ち帰った内容を伝え、前向きな取り組みと周知が行き渡るよう、きっかけづくりをしたいと思います。一つ二つ、それぞれ参加者が行動する事で、検証と達成につながると思います。
- 先生ありがとうございました。大変勉強になりました。そしてとうとう初冬になりました。お世話になりました。
- 小中学校からのお便りで参加させていただきましたが、現在やろうとしている携帯の仕事と関連があっても参考になりました。子供との関わりをもう一度見つめ直し、適切な使い方をしていきたいと思いません。また職場でもケータイを利用する保護者に情報を発信していきたいと思いません。すごくよい講座なのでもっとたくさんの人に来てもらいたいです。先生もとてもよかった！！講座案内のお便りがビッチリ書かれていて、申し込む前にしっかり読まなかった人もいると思いません。写真など入れて参加しやすい形をとるといいと思いません！！
- 子供への親から見せる姿勢について考えさせられました。取り上げるのではなく、教えていけるようにしていけたらと思いません。
- あくまでも人対人(親対子供)で向き合って、インターネットを楽しんで使える様に。保護者の理解しようとする姿勢を作れる様な研修や参加型の体験会等を作っていければと思いません。
- 今までは携帯ゲーム機に関してはネット接続をさせていませんでしたが、子供とのコミュニケーションツールとできるよう、家庭内でのルールを決めて、上手にネットと関わっていきたいと感じています。
- いろいろと「恐いな」と思っていたことが、知ることによって減ったと感じます。仕組みを知ること知人に少しは教えることができると思いません。みんなで教え合って正しい使い方をさらに学んでいこうと思いません。ありがとうございました。
- まずは自分が試す、知ることから始める。子供と情報を交換・共有できればと思った。
- この講座の開催を機にスマホに変えてみました。ネット利用について子どもの発達段階に応じた指導をしていきたいと思いません。ご指導どうもありがとうございました。
- インターネットゲーム(モンスト、ツムツム)などの情報もあれば良かった。子供との対話の必要性を感じた。

- 我が家は部活動等の集合時間、場所、持ち物の連絡に便利のため、ラインの利用をしていて、個人情報開示の不安から閲覧だけ行っているのですが、安全に利用できるように、理解を深めて利用できるようにしたいです。お忙しい予定の中、にかほ市へ講座に来ていただきありがとうございます。不安要素ばかりで利用をとどまっていたのですが、段階を踏まえて時代に適応していこうと一歩踏み出す勇気を持ちました。
- 自分の経験が少なかったと感じました。今後もこのような講座を企画していただきたいです。町内など小単位で(子供と共に)勉強できるものを提案できたらよいと思う。
- 自分の知る範囲(30年くらいの経験、失敗や成功)事例を仲のよい保護者に話したい
- 世間の現状がわかり、子どもとの接し方のアドバイスを活かそうと思いました。先延ばししないぞ!
- 中学生の妹だけのルールは長続きしなかった。大人もやらなきゃだめなんだと痛感した。やめる時間を私自身が決めることを始めようと思った。
- 面倒くささらずにツイッターやフェイスブックをやってみようかと思えます。アプリも挑戦してみようと思えます。子どもより先に失敗してみようと思えます。本気を出せればと思えます。教訓:親の特権なし
- ツイッターを始めてみました(第二回の講座以降)。講座で先生から聞いていたので、始めやすかったです。いろいろな情報が見られ、おもしろいなと思えました。システムをしっかり把握し、知らない人にもシステムを教えていきたいと思えました。
- 今までは「抑える」事しか考えていなかったが、様々な面で「危険である」という事を教えながら学んでもらいたいと思った。
- インターネットの良さ、キケンについて、改めて気づいた。ありがとうございました。
- 最新の状況と対応を学ぶことができました。四回とも参加してよかったと思えます。
- 特に SNS は自分で体験してみないとなかなか実感できない。できるかどうかわからないが、ホームページを作ったり、フェイスブックやブログを活用したりしてみたいと思った。一回参加できませんでしたが、とても感じるころの多い研修でした。ありがとうございました。
- 最新情報を得ることができました。めまぐるしく変わっていく情報を得る方法や手段もわかり、これからの仕事、生活に役立てていきたいと思えます。
- インターネットの使い方について、家庭内でルールを決めて、実践していけるようにしていきたい。
- 知らなかったことを知ることができました。インターネットのすごさ、危険性など、あらためて気づくことができました。ありがとうございました。
- 単に機械やインターネットを動かすよりも、人を止めることのむずかしさを感じた。  
フェイスブック、ツイッターや無料 WiFi について知ることが出来た。  
ネットの利用について子供と話をする機会が増えた。  
インターネットの正しい使い方や仕組みについて普段知ることのできない内容がわかった。自分が使用する上で、アプリの使い方などもわからないことが多かったので、とても役立った。職場での指導の際の参考になったので伝えたいと思う。充実した講習となりました。ありがとうございました。
- 低学齢の子どもたちを持つ保護者の方々への講座等、呼びかける機会を実現していきたいと思えます。ありがとうございました。

- インターネットセーフティに関する知識理解が深まったと思う。単に「問題だ」「危険だ」という視点では課題を解決することはできないと感じた。「賢いユーザー」をどう育てていくのか、未来を担う子どもたちのために大人が何ができるのか真剣に考え向き合い実践していくことが大切と考えている。
- 子供より一歩進んだ知識を身につけたい。
- ネット社会となった現在では情報があふれており、その中で自分が必要な情報を上手に選んでいくことが重要と感じた。
- 自治会行事や総会等で地域の話題としてインターネットのことについて一部を伝えたい。
- たのしく分かりやすい講座で、ぜひまたやってほしいと思った。
- 子供ルールつくります。
- 子供のネット利用の進め方において、子供との認識の共有をしながら出来るように、自分の利用の仕方についてももう一度考えてみたいと思いました。
- 実物を見ながら解説してくださってわかりやすかった。改めて自分のスマホの使い方を見直したい。
- 人気サービスの理解度が深まった。家族のルールを作ってみたいと思った。



## 謝辞

地域サポーター養成講座の開催ならびに本レポートの取りまとめにあたっては、秋田県教育庁生涯学習課の森川勝栄社会教育主事、柏木睦社会教育主事に多大なご尽力とご支援をいただきました。

歴代の生涯学習課課長・社会教育班班長、課員のみなさま、講座開催会場の教育事務所、市町村教育委員会やPTAのみなさまにも大変お世話になり、誠にありがとうございました。

また、秋田での地域サポーター養成講座の開催費用(講師派遣旅費および教材作成配布、実態調査などに必要な作業コスト)の多くは、講座の実証的取り組みの意義を理解いただいたインターネット事業者からの協賛金によって賄われました。ヤフー株式会社<sup>18</sup>(平成 25-27 年度)、株式会社ミクシィ(平成 26 年度)、ピットクルー株式会社(平成 27 年度)ならびに各社の窓口を務めていただいたみなさまには改めて御礼を申し上げます。

そしてご多忙の中、複数回にわたる夜間時間帯の研修会にお付き合いいただいた、地域サポーター養成講座の受講者のみなさま、ご参加ありがとうございました。引き続き、それぞれの周囲での実践および地域での仲間づくりをよろしく願いいたします。フォローアップ講座などでまたお目にかかれることを祈っております。

---

<sup>18</sup> 同社の協賛経緯については「Good Internet Life for Children 子どもたちの快適なインターネット利用環境のために」<http://csr.yahoo.co.jp/backnumber/2014/report/volume8/> に詳しい。

秋田県「大人が支える！インターネットセーフティの推進」での  
「地域サポーター養成講座」への取り組みから見えてきた  
保護者教育啓発成功のポイント

～子どもたちの安全なインターネット利用を支える保護者向けの教育啓発実践の記録～

2016年3月発行

子どもたちのインターネット利用について考える研究会 事務局  
(ヤフー株式会社、ネットスター株式会社、アルプス システム インテグレーション株式会社)

運営協力:ピットクルー株式会社  
(地域サポーター養成講座 担当講師:高橋大洋)